

## 第1章 ヘラウキ概論 その4

前号までは、ヘラウキのボディの素材として代表的な素材であるクジャクの羽根とカヤについて解説してきた。今回と次号の2回にわたり、ヘラウキの作り方ではなく、どのような考え方でボディの成型を行っているかという視点で、解説をしていきたい。

### 1. 孔雀の羽根の多枚あわせとカヤ・孔雀の羽根の1本取りについて

あくまで個人的な意見であるが、ボディの成型方法について、孔雀の羽根の多枚あわせとカヤ・孔雀の羽根の1本取りでは大きく異なると考えている。ただ、ボディを成型した後の手順は、カヤも羽根も全く一緒である。従って、カヤウキを趣味で製作される方は是非、羽根の1本取りにも挑戦してほしい。

### 2. 成型器を使用する経緯とその理由

最初に申し上げておくが、成型器がなくても、ウキを製作することは可能である。ウキ作りには絶対に成型器が必要という訳ではない。

成型器を使用しようと思ったのは、20年近く前の2004年頃、とあるトーナメントの方から、「同じウキのセットを2セット製作して欲しい。孔雀の羽根は天然素材であるので難しいと思うが、2つのセットのウキのオモリ負荷量は可能な限り同じにして欲しい。」と言われた。これは、試合中にウキを紛失したとしても、ロス時間をできる限り削減したいという要求からだと思う。

「ウキのオモリ負荷量を同じにする。」これは、「天然素材を使用しながらも、ウキの再現性を求める」ということである。この課題への対応として、「オモリ負荷量を同じにするには、同じ体積で製作する必要がある。」「ボディの直径や肩の絞り、脚側の絞りを再現性のあるものにする。」「再現性を確保するには、成型器を物差し代わりに使用する必要がある。」という考えにいきついた。そして、成型器を数多く購入していった。

### 1. ボディ成型の手順と成型器の種類

一口に成型器といっても、様々なものがある。また、ウキ作りは料理と同じで、同じ料理でも作り方は様々であり、ウキ作りも製作者によってその技法は千差万別である。

以下はあくまで、ボディ成型の概略の手順と私が使用している成型器及び関連治具ということで、紹介したい。

#### (1) カヤや羽根の径の修正

カヤ・羽根の直径を所定の径に修正するものである。併せて、真円ではない場合には、真円に近くなるように修正する。分攻めと呼ぶこともある。この工程は、カヤ・羽根1本取りと羽根2枚合わせ共通の工程である。ガラス管にアルコールランプで熱を加え、カヤ・羽根を押し込みながら、所定の径、真円に近い状態に修正する。ガラス管ではなく、真鍮管を使用

される方もおられる。



画像1：羽根の径の修正



画像2： カヤや羽根の径を修正するためのガラス管、4mm～6.5mm まで、0.5mm 刻み

(2) カヤ、羽根1本取りの4つ割り

ウキの上部、下部を絞るためにカヤ、1本取り用の羽根を均等に4つに割る工程である。

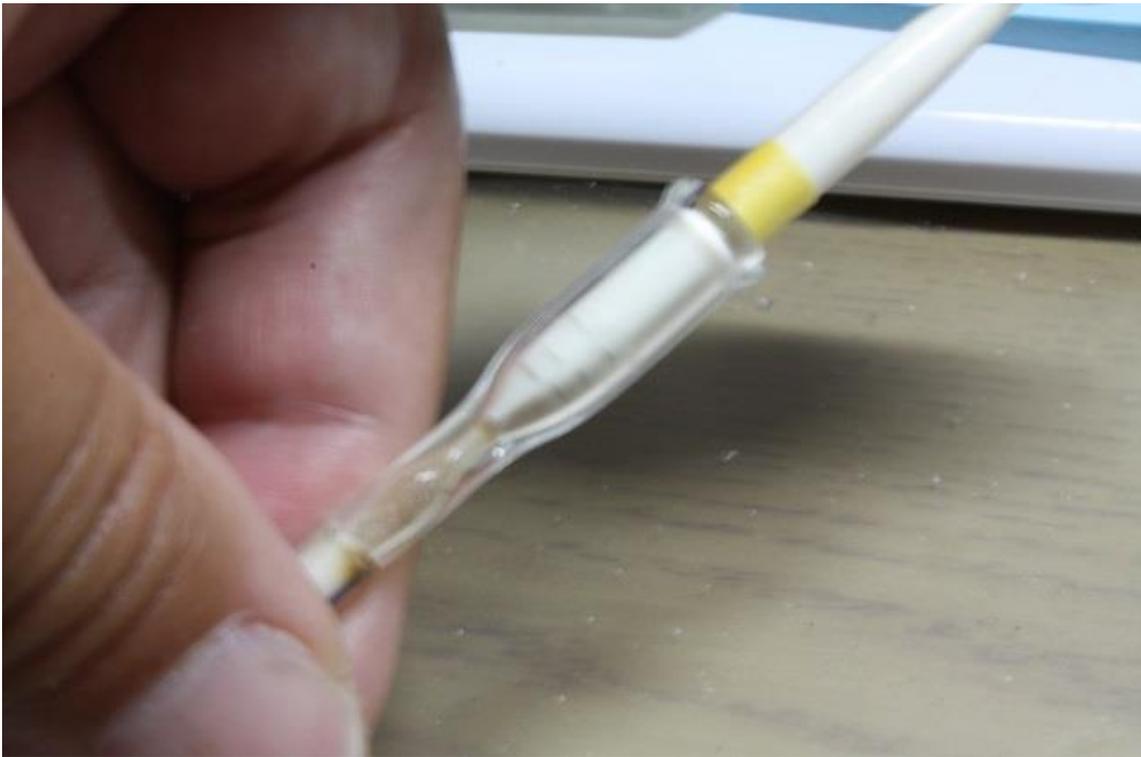


画像3：カヤを4つ割りしている状態

(3) カヤ、羽根1本取りウキの上部、下部を絞る

片刃のカミソリで大まかにカットした後、紙ヤスリで所定の寸法に削っていく。

ガラス管に入れ、ガラス管を物差し代わりに、カヤや羽根を削っていく。きれいに削れた後は、アルコールランプで熱を加え、クセ付けする。



画像 4： ガラス管に差し込みながら、隙間が空かないよう、所定の寸法に到達するように、紙ヤスリで削っていく。



画像 5： ウキの上部、下部を絞るためのガラス管、直径とテーパーの長さで種類が異なり、

かなりの数がある。5.5mm 径だけで、これだけの種類がある。

次回は、羽根 1 本取りウキの脚側の成型と羽根の 2 枚合わせの成型について、解説していきたい。